

藤沢

2014年4月1日

第239号

# エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議  
(略称) 藤沢エコネット



- 主 3.1ピキニデーと3.9ピースウオーク
- な 武田薬品の降圧剤誇大広告事件
- 記 辻堂浄化センターの焼却灰見学記
- 事 放射能測定値 ・ 福島っ子リフレッシュ

[http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa\\_econet/](http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/)

事務局 〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳

☎ / FAX 0466-87-4922

e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

## 気候変動の適応策に必要なのは

東日本大震災から丸3年が過ぎ、それ以前と変わらぬ生活を取り戻し、物事の考え方も捉え方も何ひとつ変えていない人も世の中にいるだろう。もちろんそれ以前からすべての命に対して愛と優しさ溢れているなら変わる必要はないのだが。一度は減った電気使用量が増えてしまっている事、選挙結果や報道各種の報道や調査を見ている限り、自分自身以外に過度な負担をかける生活を続けている人が震災直後に比べて明らかに増えてしまっている。

温暖化防止に関わる立場として、温室効果ガスを減らさなければ人類の将来は暗いものとわかっていのに、世の中の節電すら進める事が出来ずにいる。温室効果ガスと同等にやっかいな原発の再稼働がまるで規定路線なのに止められず、大雨や大雪が降っても10年に一度と騒ぐだけでまるで他人事な人々に気候変動という背景を伝えられず、虚しさだけがこみ上げる。

折りしも3月末には県都横浜でIPCC(気候変動に関する政府間パネル)第5次評価報告書第2作業部会会合及び第38回総会が開催されたが、人々の関心は、2月に開催された冬季オリンピックの足元にも及ばない。スキー場に通う人間ならこの30年間の雪の降り方の微妙な違いを肌で感じて、温暖化の脅威を頭だけでなくわかっているはずだが、スポーツの快感で忘れてしまうのだろうか。

高校生の頃からもう20年以上、同じような上述の言葉を繰り返してしまっている。状況は全体では悪くなってしまい、温暖化・気候変動は既に起きていて、止めながらも適応していく方向に、政府も昨年度から母校法政大学を拠点にして見知った人や後輩が適応策について研究を進めている。今後、彼らの示す道が身近なところで対策として目に付くはずだが、まずは私たちが気候変動に対して身構えておかなければ、あの地震や津波と同じような被害を被ってしまう事を胸に刻み、明日を迎えよう。

(パシフィックエコサービス 青木正美)



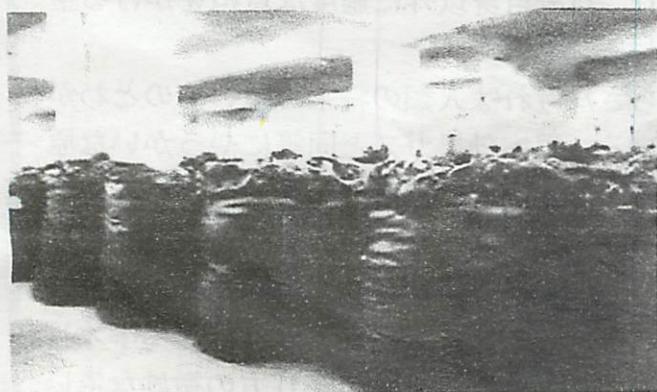
引地川沿いの満開の桜 矢板氏提供

## 辻堂浄化センター見学 ～積み上げられた黒い袋は・・・～

3月12日、武田問題対策連絡会と藤沢エコネット主催の見学会に参加しました。

下水が浄化センターで、ろ過され、透明になった水は消毒して海や川に返され、沈んだ汚泥は圧縮、焼却して、セメントの材料や線路に敷く石などに再利用されているそうです。なんとすばらしい仕組みでしょう。

ところが3年前の東日本大震災による原発事故の後、焼却灰に大量の放射性物質が含まれるようになり、再利用できなくなってしまったそうです。時間が経つにつれ、半減期などのため線量は少なくなってきているとはいえ、まだ再利用が許される1キロ当たり100ベクレルには到達しないため、3年前から今までずっと1トン入りの黒い袋に入れて保管されているというその大きな袋が、浄化槽のふたの上に幾列にも並べられていました。



灰は1日に2トン位出て、週末に5、6人の職員が防護服を着て袋詰めをしているそうです。それまでは自動的に処理されていたものが、これだけは人の手でやらなければならないそうです。増え続ける袋を保管するために倉庫も建てる予定だそうです。一体いつまで増えてどうするのか、まったく先が見えません。

福島でも汚染水が漏れ続けているし、こんな状態でなぜ原子力発電をやめようとならないのでしょうか。

### (焼却灰の放射性物質濃度)

H23.5.16	ヨウ素131	331Bq/kg
	セシウム合算値	4025Bq/kg
H23.6.8	ヨウ素131	82Bq/kg
	セシウム合算値	5042Bq/kg(最大)
H23.6.22	ヨウ素不検出	
	セシウム合算値	3500~161Bq/kg
H26.2.19	ヨウ素不検出	
	セシウム合算値	343Bq/kg

3年間で焼却灰 2560トン (甘糟 君枝)

(藤沢エコネットニュース239号)

## 3.1 ビキニデーと 3.9 湘南ピースウォーク

東日本大震災からはや3年が経ちました。被災されている方々には先の見えない、長い長い3年だと思えます。

私にできることは何かを考える日々です。

今年は初めてビキニデーに参加しました。幼い頃「雨に濡れると髪の毛が抜ける」と言われましたがなぜなのか考えることもしませんでした。東日本大震災による福島第一原発事故が起き、知識として知っていたビキニデーにぜひ行こうと、友人を誘って参加しました。

1954年3月1日、ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験でマグロ漁船「第五福竜丸」23人全員が放射能被爆をしました。被爆半年後には久保山愛吉さんが亡くなりました。現在は7名の方が被爆体験を語り継ぎ、二度とこんなことが無いように運動されています。日本各地から2000余名の方が焼津駅前から久保山さんの眠る弘徳院まで、献花の赤いパラ輪を持って歩きました。二度とこのような事故を起こさせないとの強い思いにあふれていました。

一方、茅ヶ崎で行われた、湘南ピースウォークは、原発事故に怒った地域の若者が中心になって始めた行動です。

参加者は150人ほどでしたが、子どもが50人という若い家族の多い集いでした。シュプレヒコールもラップ調で「原発いらない・平和を語ろう」「戦争いやだ・愛を語ろう」など明るく楽しく訴えるものでした。

ノーモアヒロシマ・ノーモアナガサキ・ノーモアビキニ・ノーモアフクシマ。様々な人がこの点で一致して、自分のできるところで行動していくことを学んだ2つの集会でした。(小柳倫子)

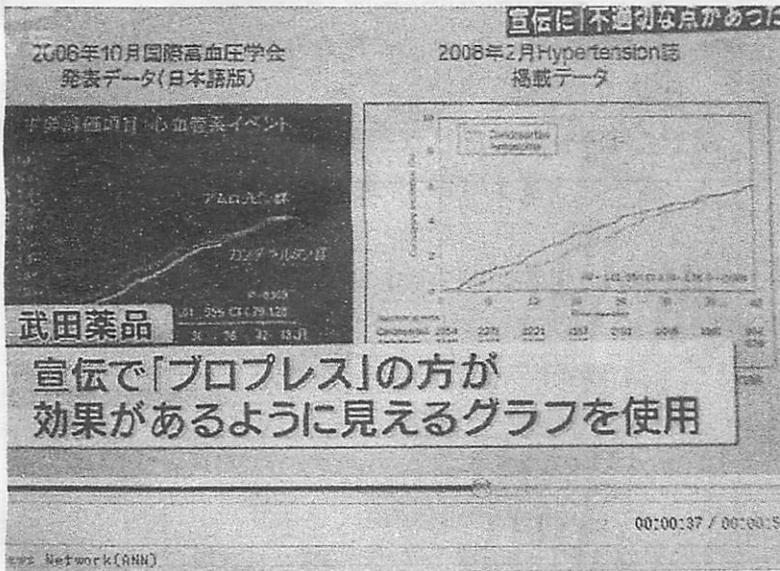


## 社会道徳に反する、武田薬品の降圧剤（プロプレス）の誇大広告事件

武田薬品が製造販売する高血圧治療薬「プロプレス」の医師向け宣伝広告が、誇大広告であったことが発覚し、問題になっている。NHKや新聞各紙が大きく報道する中で、3月3日同社長谷川社長が記者会見を開き事実を認め謝罪した。しかし、長谷川社長は「不適切なプロモーションを深く反省する」と頭を下げるだけで、「データの改ざん、ねつ造はない」と会社の責任を否定し、誇大広告による薬事法違反もないといいきった。

### ①何が誇大広告なのか、今回の事件の概要

2001年から2005年に懸けて、武田薬品の降圧剤「プロプレス」とファイザー社などの「アムロジピン」のどちらが効くか、臨床データ（エビデンス）をとる研究が行われた。この研究のため、データセンターの京都大学には武田薬品から25億円もの寄付金が投じられ、また、研究員として武田の社員が京大に送り込まれた。



研究結果は、たいして変わらないことが判明した。ところが武田薬品が、この研究データを自社のプロプレスの方が、効果があるように見せかけて使ったのが今回の事件である。手口は、武田が宣伝用に使った学会発表用のグラフは、持続的に病気を抑える効果があるように見えることを悪用したものである。(写真、武田が記者会見で発表したグラフ)

### ②金で臨床データ（エビデンス）を買収するような武田のやり方

今回の事件の問題点は、自社製品の優位性を明らかにするために、大学に研究

テーマとして提供し、多額の寄付金を提供した武田のやり方である。よい結果が出なかった為、苦肉の策として研究グラフの違いを悪用し、宣伝に使ったのが今回の事件に他ならない。これまでの薬害問題の中には、こうした製薬会社と大学の癒着から生まれたケースが多いが、薬害の無い薬を作る為にも製薬会社と大学・研究機関の癒着は断ち切ってもらいたいものである。

### ③第三者機関は公開せよ

記者会見で長谷川社長は広告作成経過などを調査するために、第三者機関を設置すると発言した。しかし、それがどのような構成のものか明らかにしていない。具体的な会社名、個人名が公表され初めて公正な第三者機関といえるものである。

今から3年前、武田薬品は新設した湘南研究所（藤沢市）でバイオ排水を漏出する事故を起こしたときに、外部機関に監査を依頼すると公表したが、調査した企業名は外国に本社がある会社というだけで一切明らかにしなかった。監査内容も、管轄する藤沢市にも市民にも、武田薬品が取捨選択した報告書の抜粋を公表するにとどまった。これでは真実は明らかにならなかつた。第三者機関の構成を公表させないと、今回のエビデンス報告のように、武田の都合のよい報告書にすり変えられてしまう恐れがある。

(武田問題対策連絡会 小林麻須男)

## 「ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南&こどもの国」報告

3月26日から4泊5日、江の島とこどもの国でふくしまっ子たち19人は元気に遊んで帰って行きました。ご支援ありがとうございました。

春休みに入り、インフルエンザ等体調を崩す人が続出、12人も欠席し、免疫力が低下しているのではないかと心配です。

2日目の江ノ島灯台と洞窟見学は雨の中、クイズを解きながら眺めたり、一緒につき添ってくれた湘南白百合学園のお姉さんたちと、おしゃべりしながら洞窟探検等を楽しみました。

自由行動では鎌倉に行く人、江ノ島水族館でイルカショーを見たり、磯あそび、日大博物館見学など、各家族も自由に楽しみ、夜は折り紙に真剣にとりくみました。

3日目、4日目は桜がまだ3分咲きのこどもの国へ行き、遊園乗りもの、アップダウンの自転車コースを回ったり、ポニーや動物と触れ合うなど、外遊びで充分運動した後は、室内で手づくりおもちゃ遊びも楽しみました。

帰りに見送りながら福島駅まで行った私は、次の日、南相馬市を訪れました。福島原発から20km圏内にある小高地区は未だに住むことができず、3年前の震災時のままでした。家は1階が津波で流されて柱だけしかなく2階は傷つかずにそのまま残っていたり、海近くには土台だけが残されていた家、また、高い木だけ残されている風景は物悲しく涙を誘いました。

### 福島の放射線量

小高地区の海岸は比較的低く、0.11-0.22マイクロシーベルト/時間でしたが、原町地区の高台の林に囲まれた南相馬市博物館前が0.519 $\mu$ Sv/hと年間2ミリシーベルトを超える値なのは驚き、恐くなりました。除染されている市役所前は昨年とあまり変わらない値の0.212 $\mu$ Sv/hを示した測定器が設置されていましたが、ホリバのRadiで同じ所を計ったら、0.378 $\mu$ Sv/hあり、年間1ミリシーベルトを超える値で、事故後の国内許容量が20ミリシーベルトに緩められた為に過酷な状況の中で暮らしている南相馬の方たちの現実と母親の心労を想いました。

南相馬市に行く途中、バスで全村避難中の飯館村を通過し、バス内でも1.119 $\mu$ Sv/hに上がるなど、雪をかぶった緑の美しい山々と立派な家々が誰も住めないゴーストタウン化していました。

4回目になったリフレッシュ活動です。これからも続けなければなりません。皆さまの温かいご支援とご協力を末長くご期待いたします。

(青柳節子)

## ECONET INFORMATION

### 放射能汚染が未来世代に及ぼすもの ～チェルノブイリに学ぶ～

講師 吉田由布子 (チェルノブイリ被害調査  
・救援女性ネットワーク事務局長)

4月6日(日) 10:45- 参加費 300円

カトリック藤沢教会センターホール

主催 卒原発を考える会



### 美しい「アメリカ」へようこそ

アーサー・ピナードさん (アメリカミシガン州生まれ、日本語で絵本やエッセイ制作 幅広く活躍中)

4月26日(土) 13:30~

藤沢市民会館小ホール 参加費 500円

主催 ふじさわ九条の会 080-1265-0282 斉藤

### 藤沢エコネットから

総会をします

新しくオープンしたリサイクルセンターの見学会

と総会を5月17日に予定しています

ニュース発行240号記念として5月は特集号です。

原稿のご協力お願い致します。

会費・購読料の納入は

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 万\*ザエコネット

(従来用紙の方法も利用できます)

会員募集=年会費・購読料→3000円

事務局会議4月10日(木) 14:00~

推進センターにて

《編集後記》雨の後はまた雨、いや豪雨という方がいいのか。気候の話ではなく、今の政治の進んでいる道の事だ。消費税が増税された。年金が下がり、医療や介護保険が改定される。そして、原発再稼働、戦後、戦争をしない国を誓った憲法を、集団的自衛権を認め国防軍へと軍事を強調して無謀に改憲へと走っている。おかしな見解だと思う。藤沢エコネットニュースは20年間様々な情報を発信し続けた。今号でも、「ただ読んでいただけ」ではなく、各団体、個人が環境や平和の問題に取り組み活動し、声を上げているということを感じさせられた。これからもどうかご愛読をお願いしたい。(H)